

令和6年6月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	4 議席 番号	5	氏名	赤池弘源 議員	1 / 2
発言項目			要 旨		答弁者
1	パートナーシップ宣誓制度について		<p>パートナーシップ宣誓制度は2015年から全国に先駆け、東京都渋谷区と世田谷区で開始された。現在では、多くの自治体で独自のパートナーシップ宣誓制度を導入している。当市においては、第5次富士宮市総合計画後期基本計画において、「性別に関わりなく個性と能力を発揮できる男女共同参画社会を実現するため」と基本方針に定めている。パートナーシップ宣誓制度について以下伺う。</p> <p>(1) 性的少数者への施策として市が現在行っていることがあれば伺う。</p> <p>(2) 静岡県はパートナーシップ宣誓制度を2023年3月からスタートした。自治体ごとに制度等名称の項目を設けている。当市では住民票の続柄の項目について掲載がないが、他の市町ではその項目を設け、あえて縁故者に変更できる旨を記載している。申請する側の立場から考えると、「住民票の続柄（つづきがら）を縁故者に変更」の項目を設けた方が良いと考えるが市の考えを伺う。</p> <p>(3) 第5次富士宮市総合計画後期基本計画の基本目標7、政策2の施策3、人権の尊重(2)においては、「性的マイノリティへの支援」とある。市独自のパートナーシップ宣誓制度を導入することが、性的マイノリティの人への支援になると考えるが、市の見解を伺う。</p>		市長 副市長 教育長 関係部長
2	南海トラフ地震時における、「緊急時用浄水装置」の活用について		<p>「富士宮市防災マップ」の中にある、静岡県第4次地震被害想定についてライフライン被害（機能支障率）が掲載されている。これによると上水道の被害は、災害7日後でも38%とある。避難所に12,256人、また、避難所外には12,256人、合計避難者数は24,512人となっている。上水道が普及してからできた新興住宅地域においては、特に水の確保は深刻に感じる。富士宮市では24,512人分の飲料水や、生活用水を備蓄によってどの程度対応できるか以下伺う。</p> <p>(1) 内閣府によれば南海トラフ地震が発生した場合、被害は広範囲にわたり上水道においては、最大3,440万人が断水により使用不可能になるというが、そのような場合、国や県による富士宮市への支援をどの程度想定しているか伺う。</p> <p>(2) 各地域の防災倉庫に緊急時用浄水装置が配備されている。配備状況及び機械のメンテナンスについて伺う。</p> <p>(3) 緊急時用浄水装置は災害時にどのように使うか。また、日頃の保守点検・訓練の状況について伺う。</p> <p>(4) 緊急時用浄水装置を各自治会において配備しているところもある。以前補助金があったと聞いているが、現在はどのようなになっているか。</p>		市長 副市長 教育長 関係部長
3	宮バス・宮タクを活用してもらおう施策について		<p>平成20年4月からコミュニティバス「宮バス」とデマンド型タクシー「宮タク」の運行が開始され、「富士宮市地域公共交通計画」によって運営が進められている。次期、地域公共交通計画作成の当局の姿勢を伺う。</p> <p>(1) 「宮バス」のメリット・デメリットについて伺う。</p>		市長 副市長 教育長 関係部長

発言 順序	4	議席 番号	5	氏名	赤池弘源 議員	2/2
発言項目		要 旨				答弁者
		(2) 「宮タク」のメリット・デメリットについて伺う。 (3) 「宮バス」、「宮タク」の利用促進と市民サービス向上には、どのような取組が必要か。また、課題は何か。 (4) 令和3年3月策定の富士宮市第2次地域公共交通計画の中に「将来を見据えた新技術の公共交通サービスの調査研究」とあるが、実施主体の交通事業者と当局はどのような調査研究を行っているか伺う。 (5) 新しい公共交通「ライドシェア」についての市の見解を伺う。				